

氏名	堀西 祐多
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第697号
学位授与年月日	令和8年3月19日
審査委員	主査 教授 廣井 直樹
	副査 准教授 定金 敦子
	副査 准教授 吉野 純

論文審査の結果の要旨

美容室は、多様な背景を持つ人々が集まり、社会的つながりを育む重要なコミュニティスペースである。本研究は、継続的な美容師と顧客間で交わされる美容室での日常的な対話を通じて、美容室が健康教育においてどのような役割を持つかを解析した質的研究である。島根県松江市の単一の美容室にて、2022年6月の1か月間に127名の顧客と交わされた会話内容記録をもとに、スタッフの感情、可能な対応を質問紙で収集した。会話内容を分類したところ、健康・医療に関する話題と個人的な生活の話題が、各々27.6%と最も多かった。テーマ分析法を用いて、2名の独立した研究者が会話内容を抽象概念化したところ、「顧客との継続性」「顧客と美容師との信頼関係」「美容室の役割の拡大」の3つのテーマが抽出された。「顧客と美容師との信頼関係」のテーマに分類されるものの中でも「時間的連続性を通じた複数世代間関係の拡大」と「美容師の顧客との交流を通じた学習動機」の項目が多くみられた。継続的な美容院通いは、美容師と顧客の間に信頼関係を育み、こうした関係性の中で、個人的・健康関連の対話が自然に生まれると考えられた。また、継続的な関係性は情報共有と行動変容を促進し、美容室は家庭や職場とは異なる非公式な「第三の居場所」として機能し、個人的な話題や健康に関する対話が自然に生じやすい安心した空間であると考えられた。更に、美容室は医療機関でないからこそ、日常的な対話とスタッフとの関係性そのものが適切な受療行動を間接的に支援している可能性あると考えられた。本研究の限界として単一施設でサンプル数が少ないこと、コロナ流行期であることなどが考えられた。人口減少・高齢化が進み地域の医療資源が限られていく中、美容室という身近な場における対話と関係性が健康との関わりを生み出している実態を可視化し、美容室を地域に根ざした公衆衛生資源として捉え直した点に本研究の意義があると考えられた。